

 シラバス参照

&lt;&lt;最終更新日：2016年03月04日&gt;&gt;

## 基本情報

時間割コード	F1794S	開講区分(開講学期)	1 学期	曜日・時間	水4
開講科目名	日本語教育学特論 a (他指定)			教室	箕/E棟N教育実習室
開講科目名(英)	Special Seminar in Japanese Language Teaching			定員	
必修・選択				単位数	2
対象所属				年次	3,4年
担当教員	真嶋 潤子			開講言語	日本語

## 詳細情報

講義題目	日本語教育模擬教壇実習
授業の目的と概要	日本語の授業を組み立て、教壇に立つための基礎的な知識や教育活動の基礎を学ぶ。第2期に『日本語教育学演習b』で行う日本語の教科書を使った実習の前段階として、媒介語のない状態での教室作業を多様な言語を教えることで体験する。
学習目標	初級日本語教育の基礎的な技法を身につけることができる。学習者の立場に立って、直接法で外国語を指導する時の留意点が理解できる。
履修条件・受講条件	日本語教育概論あるいは同等の内容の授業を履修済みであること。 「日本語教育学演習a」「日本語教育学演習b」の両方を続けて履修することが望ましい。履修希望者が多数の場合は、人数制限を行うことがある。
特記事項	なし
授業形態	演習科目
授業外における学習	一学期に2～3回の教壇実習を担当するが、回数は受講者数による。教案を作成しておくこと。
教科書・教材	授業中に指示する。
参考文献	『日本語教師のための「授業力」を磨く30のテーマ』河野俊之、小河原義朗著 (2006)アルク 『日本語の教え方ABC-「どうやって教える？」にお答えします』寺田和子他著 (1998) アルク 『日本語教科書の落とし穴』新屋映子他著 (1999) アルク これ以外は、授業中に指示する。
成績評価	出席を重視し、模擬教壇実習60%と教案40%を総合して評価する。
コメント	「日本語教育学演習a」「日本語教育学演習b」の両方を続けて履修することが望ましい。履修希望者が多数の場合は、人数制限を行うことがある。「日本語教育学概論」を履修済みであること。

## 授業担当教員

教員氏名	所属・職名・講座名	e-mail
データがありません		

## 授業計画

日本語教育の現場で教育実習をする前段階として、日本語以外の言語を使って、受講生全員がマイクロティーチングの形で模擬教壇実習を行い、お互いにコメントを加え、どのような指導が有効かを考え、教室での指導技術を身につける。

第1回 オリエンテーション

第2回～15回 模擬教壇実習